

昭和興産

昭和興産(上海)貿易有限公司

日系、ローカル系に拡販

広州分公司の設立も検討

昭和興産の中国現地法人、昭和興産（上海）貿易有限公司は、中国内需の取り込みを強化する。同社は自動車および電子産業を主要顧客とする。化学品、添加剤、樹脂などで現地調達品への比重を高める一方、輸入品では高付加価値品をテーマに展開し、市場ニーズに沿った商品投入する。また、香港法人では昨年、日本人駐在員が増員さ



赤羽総経理

れ、華南市場の開拓を本格始動した。「上海、香港の2拠点体制の構築により、日系に加えローカル系への拡販を強化する。将来的には広州分公司の設立も検討している（赤羽健生総経理）。

昭和興産（上海）貿易有限公司は、2003年末に営業を開始。内需をメインに展開し、売上高のうち、約7割が国内販売によるものだ。従来、日本からの輸入品を主力としていたもの



の、長引く円高によって、その比率を低めている。とくに同等品のシェア争いは列を極め、11年の売上高は前年実績を下回った。

ただし、市場の現地調達化を促す一助として、取扱量を急増させている中国品の国内販売は数量・売上高ともに前年を上回っており、ローカル系との取引が増加している。同時に、添加剤などについては日本品の高付加価値面を前面に押し出して訴求

し、顧客増につなげている。また、新規に日用品関連商品の販売を開始する。まずは生理用品向け吸水性樹脂の販売を開始し、今後はオムツ向けに通気性フィルムを投入する計画。

一方、華南市場では香港法人と協力して展開する。自動車関連、電子産業向けに樹脂、添加剤、可塑剤などを供給。カーナビやスマートフォン向け電子材料、包装材料などの販売が好調だ。さらに日本本社と連携し、太陽光関連部材、フラットパネルディスプレイ（FPD）関連機能性フィルム、バイオマス関連、機能性樹脂関連、難燃剤関連などの中国展開を強化。12年の目標、売上高の15%増につなげる。

一方、輸出にも注力。日本やタイ拠点、協力し、リン酸塩や包装材料関連などの拠点間ビジネスを強化する。事業拡大に当たって、人員補充を視野に入れるとともに、人材育成にも注力する。